

総合人間学 KW「対話」に関する研究会（実施要領）

——「KW 公募」企画の参考も兼ねて——

総合人間学 KW 集発刊委員会（2021 年 11 月 18 日）

日 時：2021 年 12 月 12 日（日）13:00 - 15:30

会 場：オンライン開催

Zoom ミーティング情報は hasebat@nms.ac.jp への申し込み後に連絡します。

趣 意：2016 年 6 月の第 11 回研究大会（学会創立 10 周年記念フォーラム）で「総合人間学の方法論」を初めて問うたとき、参加者の一人であった高橋在也会員は、「報告内容を決して批判しないこと」が重要であると指摘された。それは、「批判すれど、否定せず」の意味かと伺ったところ、「そうではなく、批判しないことだ」と回答された。このオウム返しの返答に、その場では指摘の真意がわからず、この問題は後日の研究会で再度議論することになり、高橋氏にご報告いただいたが、氏自身もどのように説明すればよいか、考えあぐねているとのことであった。

2019 年 6 月の第 14 回大会では「いのちのゆれの現場から実践知を問う」シンポジウムを開催したが、企画の段階から、中村俊実行委員長が繰り返し強調されていたのが、「対話」の重要性であった。そして今でも、種々の話し合いの場で「対話」が重要であるとの主張を中村俊理事は繰り返されている。

企画者が思うに、5 年前の高橋会員の指摘は、近年の中村理事の主張に重なるものがある。それが何なのか。果たして、そうなのか。お二人にご協力いただき、明らかにしたいと思う。そして、両者の議論を結合させたところに、総合人間学独自の方法論が浮かび上がってくるように思われる。すなわち、「批判しない」・「対話」である。これを「非批判的対話主義（Non-Critical Dialoguing）」と呼び、新たな、そして総合人間学独自の方法論を示す KW として提唱しようと思う。

- 内 容：**
- ①趣意説明（5 分） 穴見慎一氏
 - ②第 1 報告（20 分） 中村 俊氏
 - ③質疑応答（5 分）
 - ④第 2 報告（20 分） 高橋在也氏
 - ⑤質疑応答（5 分）
 - ⑥第 3 報告（20 分） 穴見慎一氏
 - ⑦質疑応答（5 分）
 - 休憩（10 分）
 - ⑧論点整理（10 分） 河上睦子氏・小原由美子氏

⑨総合対話 (50分)

司 会：小原由美子氏・河上睦子氏

運 営：太田明氏・長谷場健氏

(以上)